

第2章 近江八幡市の観光動向と水郷めぐり

はじめに

昨年度の福岡県柳川市、千葉県香取市の水郷地域の視察調査に続き、2013年度は滋賀県近江八幡市の「近江八幡の水郷」の視察を行った。近江八幡市は、琵琶湖八景の一つといわれる西の湖とその周辺の自然景観、近江商人の発祥の地である近世の商業都市の歴史的遺産を有する地域である。本年度の共同研究では「近江八幡市の水郷」を活用した観光まちづくりをテーマの一つとしている。本章では、近江八幡市の概要、観光の動向、観光課題と施策、新たな観光まちづくりを取り上げる。

I 近江八幡市の概要¹

近江八幡市は滋賀県の中央部の湖東平野に位置し、ラムサール条約で登録された北東部に広がる西の湖は、ヨシの群生地で湿地生態系を示している。古くから琵琶湖の東西交通を支えた拠点の一つとして栄え、1585年には豊臣秀次が八幡山城の麓に城下町を開き、商業都市として発展してきた。楽市楽座の自由商業都市の思想の下で、近江商人の基礎が築かれた。近江商人が取引した商品には、「近江表」「近江上布」など湿生植物を原料とするものが数多く含まれており、ヨシの産地として広く知られるようになった。ヨシ加工による簾などの高級夏用建具の製造も行われた。1991年、新町通り、永原町通り、八幡堀沿いの町並みおよび日牟禮八幡宮境内地は「近江八幡市八幡伝統的建造物群保存地区」の名称で国の重要伝統的建造物群保存地区として選定された。地区内の建築物180、工作物93が伝統的建造物として特定されている。また、2005年9月1日には水郷地域160ヘクタールが景観法に基づく「景観計画区域」に指定された。これは同法の適用第1号である。さらに2006年1月26日には「近江八幡の水郷」として重要文化的景観の第1号に選定された。2010年3月21日、近江八幡市と安土町の1市1町が合併し、新近江八幡市が誕生した。2014年1月1日時点の人口は、82,421人(男性40,474、女性41,947人)である。

II 近江八幡市の観光

1. 観光客入込客の動向

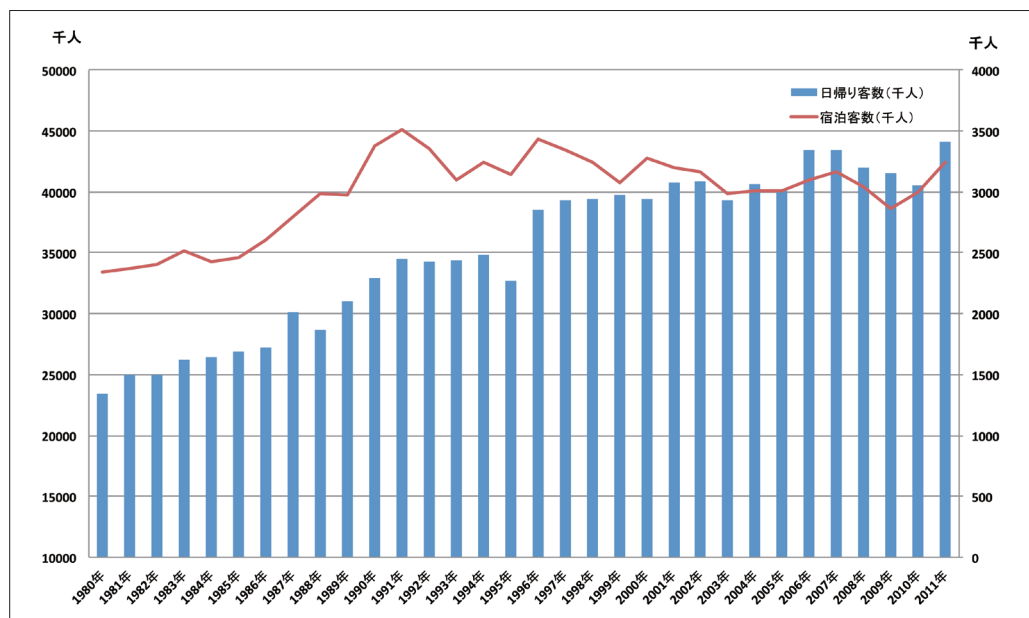
(1) 滋賀県の観光動向

図1では、1980年から2011年までの滋賀県の日帰り客数と宿泊客数の推移を示している。1980年の日帰り客数は約2,340万人、宿泊客数は約234万人であった。その後、日帰り客数、宿泊客数とも増加傾向を示し、バブルが崩壊する1991年まではほぼ右肩上がり増加した。1991年には、近江八幡市の宿泊客数は約351万人を記録し、その後も含めて最高宿泊客数と

1 本節は、近江八幡市統計書各年版、近江八幡市観光振興計画書を参考とした。

なっている。1995年には阪神淡路大震災の影響で、滋賀県内の観光入込客数は、前年に比べて223万人減少したが、それ以後2000年に入り、観光入込客総数（延数）は4,000万人台で推移し、2011年日帰り客は過去最高の約4,412万人を記録した。

図1 滋賀県の観光入込客の推移



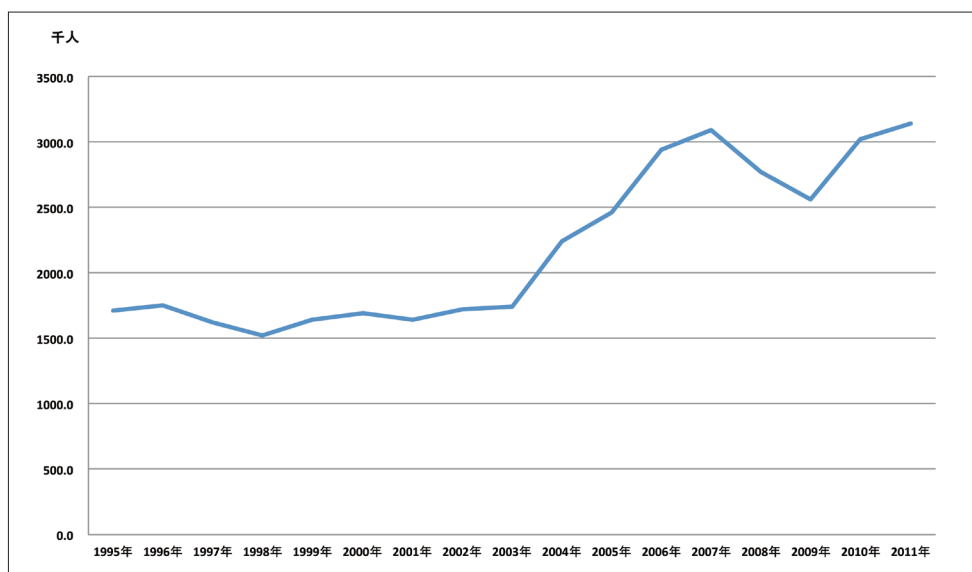
資料) 滋賀県観光入込客統計調査より作成

(2) 近江八幡市の観光動向

図2では、1995年から2011年までの近江八幡市の観光入込客数の推移を示している。1995年から2003年まで160万人台で推移していた観光入込客数が2004年以降200万人台に増加し、2010年の安土町との合併後、2011年には約314万人を記録し、1995年以降最大となった。

表1は、2002年から2011年までの10年間の近江八幡市の月別観光入込客数を日帰り客と宿泊客に分けてその動向を表示した。また、図3では、10年間の観光入込客数の月別平均を示した。日帰り客と宿泊客とも8月と5月が繁忙期で、2月と12月が閑散期である。また、1月は、日帰り客は繁忙期であり、宿泊客は閑散期である。観光客入込客数は8月が最も多く、日帰り客数は平均で283,030人、宿泊客数は平均で16,070人、2月が最も少なく、日帰り客数は平均で105,760人、宿泊客数は平均で6,790人であり、8月の繁忙期と2月の閑散期との差は、日帰り客で約170,000人、宿泊客で約9,300人である。

図2 近江八幡市の観光客動向



資料) 滋賀県観光入込客統計調査より作成

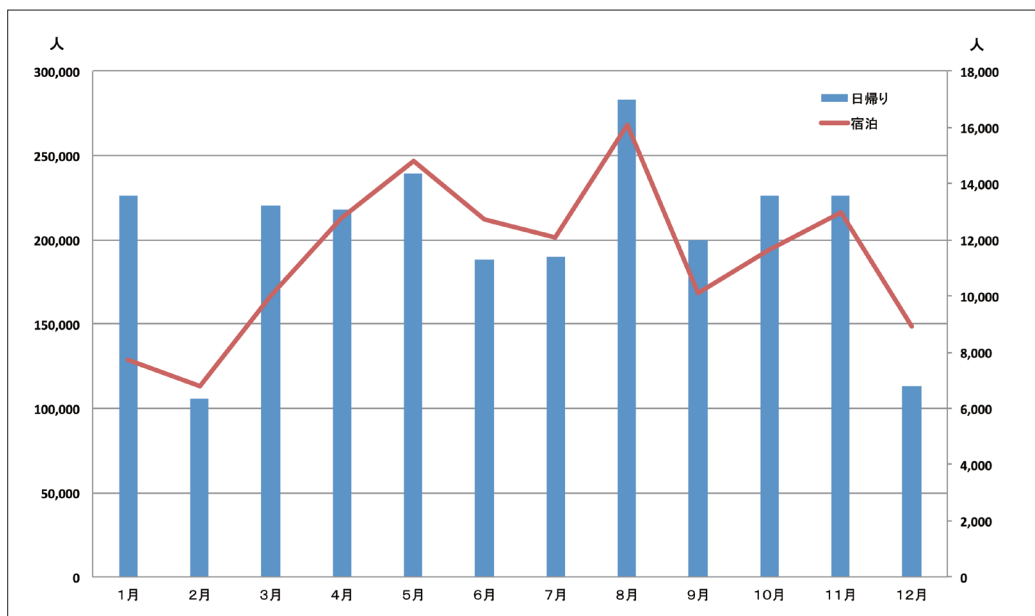
注) 2010年に旧近江八幡市と安土町が合併

表1 近江八幡市の月別観光入込客の推移

年	日帰り・ 宿泊別	延観光 客数	月 別 入 込 客 数											
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2002	日帰り	1,582,100	164,000	57,600	99,400	136,200	161,300	122,500	139,400	204,600	126,500	153,700	145,400	71,500
	宿泊	136,900	7,200	6,300	9,700	12,600	14,500	13,000	13,300	18,100	10,300	11,500	12,400	8,000
	計	1,719,000	171,200	63,900	109,100	148,800	175,800	135,500	152,700	222,700	136,800	165,200	157,800	79,500
2003	日帰り	1,601,100	139,000	54,200	138,100	143,900	140,700	114,100	131,000	221,400	134,300	161,600	159,300	63,500
	宿泊	141,300	6,600	5,600	9,800	12,900	15,500	13,200	14,100	17,500	10,900	12,100	13,000	10,100
	計	1,742,400	145,600	59,800	147,900	156,800	156,200	127,300	145,100	238,900	145,200	173,700	172,300	73,600
2004	日帰り	2,099,500	211,100	82,800	199,600	193,200	199,400	147,700	170,100	249,600	163,400	184,400	188,200	110,000
	宿泊	146,000	7,700	7,500	10,800	13,500	16,200	12,500	14,200	18,100	11,200	11,400	13,400	9,500
	計	2,245,500	218,800	90,300	210,400	206,700	215,600	160,200	184,300	267,700	174,600	195,800	201,600	119,500
2005	日帰り	2,328,500	213,600	93,900	199,700	214,600	229,400	175,900	204,500	288,200	180,100	205,900	223,100	99,600
	宿泊	138,900	7,400	7,000	11,100	13,900	15,500	12,900	12,000	16,700	9,900	11,100	12,500	8,900
	計	2,467,400	221,000	100,900	210,800	228,500	244,900	188,800	216,500	304,900	190,000	217,000	235,600	108,500
2006	日帰り	2,782,900	225,100	103,000	241,700	255,400	275,600	211,900	220,300	347,500	231,000	264,800	267,200	139,400
	宿泊	156,800	8,300	7,800	12,000	13,900	17,100	14,600	13,700	18,000	11,600	13,900	15,700	10,200
	計	2,939,700	233,400	110,800	253,700	269,300	292,700	226,500	234,000	365,500	242,600	278,700	282,900	149,600
2007	日帰り	2,938,700	243,200	134,900	279,800	273,900	275,100	226,600	230,600	366,700	233,900	261,900	257,200	154,900
	宿泊	160,100	10,600	8,000	11,900	16,300	16,500	15,000	12,800	18,000	11,200	13,300	17,400	9,100
	計	3,098,800	253,800	142,900	291,700	290,200	291,600	241,600	243,400	384,700	245,100	275,200	274,600	164,000
2008	日帰り	2,629,800	235,200	105,900	262,200	238,200	245,900	198,300	215,300	323,500	199,100	221,900	258,200	126,100
	宿泊	147,800	9,600	8,100	10,900	14,800	17,000	13,700	11,900	15,700	9,800	12,300	14,300	9,700
	計	2,777,600	244,800	114,000	273,100	253,000	262,900	212,000	227,200	339,200	208,900	234,200	272,500	135,800
2009	日帰り	2,457,500	247,300	139,300	252,300	209,400	222,200	174,800	170,800	245,400	231,800	244,700	213,800	105,700
	宿泊	107,200	8,200	6,900	7,900	9,100	8,700	7,700	9,400	12,000	9,200	10,100	10,500	7,500
	計	2,564,700	255,500	146,200	260,200	218,500	230,900	182,500	180,200	257,400	241,000	254,800	224,300	113,200
2010	日帰り	2,918,300	298,700	138,600	275,600	245,400	316,800	255,900	200,600	268,000	252,500	269,600	266,300	130,300
	宿泊	106,900	3,700	3,100	6,200	10,000	13,500	12,100	9,400	12,900	8,200	10,300	9,900	7,600
	計	3,025,200	302,400	141,700	281,800	255,400	330,300	268,000	210,000	280,900	260,700	279,900	276,200	137,900
2011	日帰り	3,015,700	281,800	147,400	252,900	267,400	328,000	250,000	217,300	315,400	245,900	294,500	281,700	133,400
	宿泊	124,100	7,800	7,600	9,800	10,600	13,700	12,600	10,100	13,700	8,600	10,600	10,500	8,500
	計	3,139,800	289,600	155,000	262,700	278,000	341,700	262,600	227,400	329,100	254,500	305,100	292,200	141,900

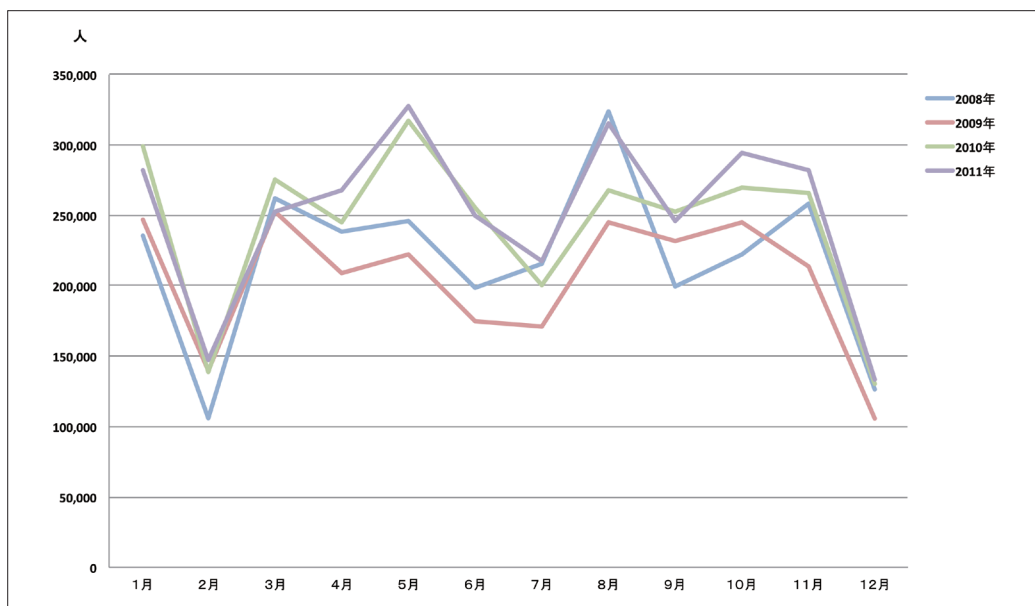
資料) 近江八幡市統計書各年版より作成

図3 近江八幡市の月別観光入込客数の推移



資料) 滋賀県観光入込客統計調査より作成
 注) 2002年から2011年までの月別平均

図4 近江八幡市の月別日帰り客数の推移



資料) 滋賀県観光入込客統計調査より作成

図4は2008年から4年間の月別の日帰り客数の推移を示している。図3では、8月が最も高くピークとなっているが、最近の傾向は5月にもピーク期を迎えている。5月にゴールデンウィークに多くの日帰り客で賑わうと考えられる。また、3月の桜のシーズンや10月11月の紅葉のシーズンにも繁忙期を迎える。

表2 近江八幡市の目的別観光入込客数の推移

年	観光客 外国人	計	登山、 ハイキング	スキー、 スケート	水泳、 舟遊び	キャンプ	釣り、ゴルフ、 テニス	寺社、 文化財	遊覧船	行催事	一般行楽		
2002	観光客数	1,719,000	5,500	0	66,700	13,000	53,500	608,800	133,800	10,000	827,700		
	内外国人数	2,193	0	0	910	10	0	264	0	8	1,001		
2003	観光客数	1,742,400	3,500	0	51,800	15,000	56,400	575,700	144,100	107,500	788,400		
	内外国人数	1,159	0	0	0	0	0	201	18	15	925		
2004	観光客数	2,245,500	4,000	0	58,000	13,000	53,100	730,200	149,400	134,000	1,103,800		
	内外国人数	868	0	0	0	0	0	157	38	23	650		
2005	観光客数	2,467,400	6,000	0	1,800	13,600	52,600	783,900	167,000	123,900	1,318,600		
	内外国人数	1,935	0	0	0	0	0	826	49	78	982		
2006	観光客数	2,939,700	7,000	0	1,100	14,500	53,400	849,900	166,000	113,100	1,734,700		
	内外国人数	1,749	0	0	0	0	0	579	139	0	1,031		
2007	観光客数	3,098,800	8,100	0	800	14,900	56,200	927,400	196,900	151,800	1,742,700		
	内外国人数	898	0	0	0	0	0	202	277	0	419		
2008	観光客数	2,777,600	8,800	0	200	14,100	52,300	861,000	152,500	136,000	1,552,700		
	内外国人数	756	0	0	0	0	0	22	204	0	530		
2009	観光客数	2,564,700	3,300	0	0	5,300	5,600	952,600	139,400	135,900	1,322,600		
	内外国人数	389	0	0	0	0	0	80	0	15	294		
		計	自然	歴史・文化		温泉・ 健康	スポーツ・レクリエーション			都市型	観光 (買物・ 食等)	その他	行祭事・ イベント
				歴史	博物館・ 美術館等		スポーツ 施設、 キャンプ	水泳場、 マリナー	公園・ テーマ パーク等				
2010	観光客数	3,025,200	154,800	1,751,700	294,100	0	170,000	0	0	223,400	261,700	169,500	
	内外国人数	4,995	2,667	0	370	0	0	0	0	0	1,958	0	
2011	観光客数	3,139,800	126,400	1,825,600	336,900	0	200,600	0	0	215,500	268,300	166,500	
	内外国人数	2,732	0	107	318	0	0	0	0	382	1,925		

資料) 滋賀県観光入込客統計調査より作成

表2は、2002年から10年間の目的別観光入込客数(外国人数を含む)の推移を示している。2010年から安土町との合併に伴い目的項目を新しく入れかえている。2008年までは一般行楽が最も多く、2010年以降では、歴史が最も多くなっている。これは商業都市としての歴史的建造物や近江商人の町並み散策を観光目的としていると考えられる。また、寺社・文化財も入り込みが多く、日牟禮八幡宮への参詣客や修学旅行生などが多数を占めると思われる。近江八幡市を訪れる外国人観光客を目的別にみると、年度ごとの変化が大きく、来訪者の多い年もあれば全く来訪しない年もあり、何か特定の観光施設を目的として来訪しているとは言い難い。

2. 近江八幡市の「水郷めぐり」

(1) 「水郷めぐり」の概要²

近江八幡市の北東部に位置する西の湖の「近江八幡の水郷」は、「茨城県の潮来」、「福岡県の柳川」と合わせて日本三大水郷と呼ばれている。2006年1月には、西の湖を中心に、長命寺川、八幡堀と周辺のヨシの群生地が重要文化的景観選定制度適用の全国第1号として「近江八幡の水郷」の名称で選定された。「近江八幡水郷めぐり」の発祥は、豊臣秀次にまで遡る。豊年橋から広がる水郷地帯へ宮中の舟遊びに似せて、船めぐりをしたのが最初とされている。現在、近江八幡市内には4社の「水郷めぐり」を行う船会社があり、3月中旬から11月末にかけて営業を行っている。乗船時間は60分から80分で、乗船料金は大人2,100円、小人1,050円で4社とも同一料金である。下記のルートマップは4社の乗船ルートである。



引用) 近江八幡観光ナビ (http://www.omi8.com/annai/suigoumeguri_map.htm)



水郷めぐりの小舟 (筆者撮影)



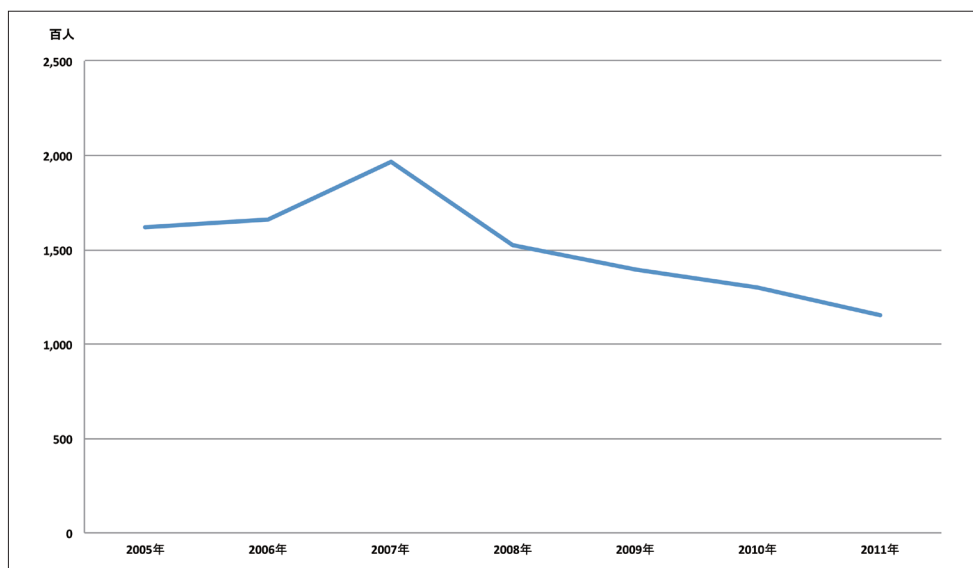
近江八幡水郷の景観 (筆者撮影)

2 「近江八幡水郷めぐり」に関しては、近江八幡観光物産協会のホームページ (<http://www.omi8.com/>) を参照。

(2)「水郷めぐり」観光入込客数の動向

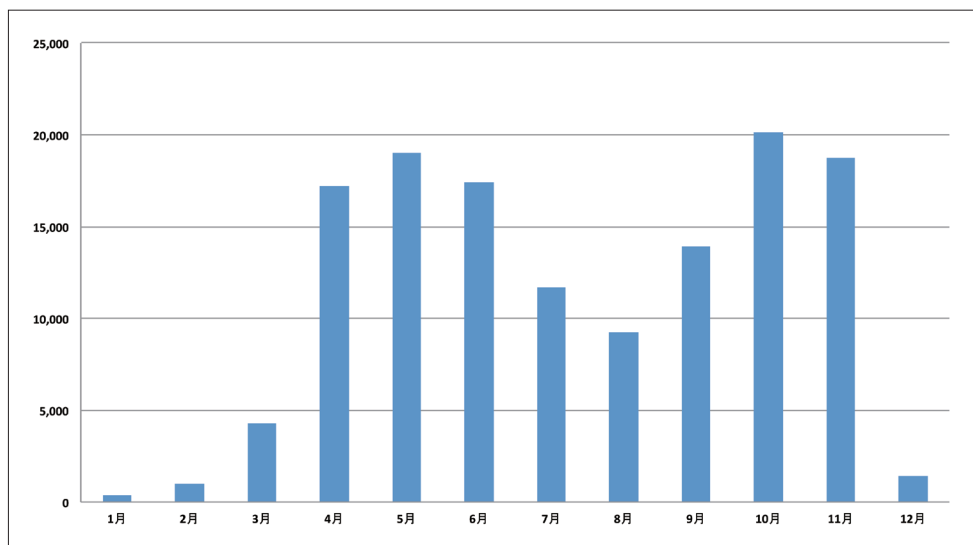
図5は、2005年から7年間の「近江八幡水郷めぐり」の観光入込客数の推移を示している。2007年が最も多く196,900人を記録し、その後減少傾向となり、2011年には115,300人で、2007年からの5年間で81,600人が減少した。

図5 近江八幡市の水郷めぐりの観光客の推移



資料) 近江八幡市統計書各年版より作成

図6 近江八幡市水郷めぐりの月別観光入込客数



資料) 近江八幡市統計書各年版より作成

注) 2008年から2011年までの月別平均

図6は、2008年から2011年までの「近江八幡水郷めぐり」の月別平均の観光入込客数を示している。5月10月11月が繁忙期で、1月2月12月が閑散期である。10月が最も多く平均で20,125人、1月が最も少なく平均で400人の入り込みである。5月と10月の繁忙期に挟まれて8月は観光入込客数減少している。図3で示したように、近江八幡市の観光入込客数は、日帰り客、宿泊客とも8月が最も多い。その意味では、近江八幡市を訪れる多くの観光客を「近江八幡水郷めぐり」に誘客できているとは言えない。

Ⅲ 近江八幡市の観光振興³

旧近江八幡市の観光振興計画は2006年に策定され、観光振興事業を展開している。「近江八幡市観光振興計画」では、近江八幡市の観光課題と観光施策を以下のように指摘している。それらを要約する。

1. 観光課題

- (1) 全市的な観光地の連携
- (2) コミュニティツーリズムによる地域再発見
- (3) 地域の暮らしと観光の調和する都市基盤の整備
- (4) 暮らしの文化としての物産・農林水産業の活性化
- (5) 広域観光との連携
- (6) 観光客の受け入れ体制の整備

2. 観光施策

- (1) 全市域的な観光地イメージの形成—景観づくり計画を基礎とする観光地連携
 - ・水環境の保全と活用
 - ・緑空間の保全と活用
 - ・風景づくり
- (2) 地域の自然・歴史文化の伝承と創造—コミュニティツーリズムの展開
 - ・歴史・文化保全と活用
 - ・地域の歴史・文化の伝承と創造
 - ・季節を感じる行事・祭事の活性化
- (3) 円滑な移動を工夫する都市基盤の整備—市民の暮らしと観光客の利便性の調和
 - ・安心・安全な道づくり
 - ・人と車にやさしい案内システムの整備
 - ・移動交通の工夫と充実
 - ・新・旧市街地の調和あるまちなみの形成
- (4) 観光と連携した地域のなりわいづくり—地域物産のブランド化
 - ・水郷野菜等による農水産物のブランド化の推進
 - ・地域性のある特産品づくり

3 本節は、近江八幡市観光振興計画を引用のうえ、文章を修正した。

(5) まちづくり観光の体制整備—市民とともにあるまちづくり観光の推進体制

- ・ 市民生活と観光に関する良好な市民意識の醸成
- ・ まちづくり観光を担う組織体制の整備
- ・ 広域観光の推進
- ・ 観光情報の発信体制の充実

IV 新たな観光まちづくり

21 世紀に入り、従来型の地域振興から新たな地域づくりへと転換をみせはじめている。ここでは、観光まちづくりという視点から新たな展開の必要性を指摘する。

1. 協働システムの構築

従来型の地域開発の総合計画は、国・自治体・業界・一部有識者の意見を反映して策定される一極集中方式によるものであった。しかし、地域に関わる問題が多岐にわたり細分化され複雑化するに従って、一極集中的な計画立案には限界が生じた。その結果、全国各地に地域の実態を掌握しきれない数合わせの画一的な施策が推進された。その代表的な事例が総合保養地域整備法（リゾート法）による地域開発であろう。安易な計画性と集客需要の読みの甘さが多くのリゾート地域を破綻に追いやってきた。

この問題の解決策の一つとして考えられるのが、行政・企業・NPO・住民等による協働システムの構築である。地域に対して効果的な施策を促進していくためには、地域の実態を把握した人々の参加と有機的な連携により、地域固有の特性（歴史的・文化的遺産）を活用できる体制と制度の整備が必要である。

2. ハードからソフトへ

外来型開発の下で行ってきた観光開発は、大型の観光施設を集客の手段と考えていた。しかし、ハコモノの魅力で観光客を引きつけようとするやり方は多くの地域で破綻した。それは観光施設のアトラクション機能の陳腐化が予想以上に速く、アトラクションへの追加投資がそれに追いつかないからである。リピータを誘客するためには、追加投資は欠かすことができない。しかし、そのため経営体力の弱い地域では赤字経営へと転落することになる。このような悪循環は外来型の観光開発の限界性を示すものとなった。観光の多様化と共に、これまでのハードに頼る観光形態から、地域の「知恵」をいかした観光形態へと人々の視点は移りつつある。一様な観光施設よりも、独自性をもったイベントや観光地でしか味わえない参加体験型学習や人的交流にいま人気があるのもその現れであろう。そこでは、量よりも質が問われ、如何に内容のあるもの（本物らしさ）を輩出し、PR していくかが重要となる。

3. 交流人口の拡大

人々の観光形態が参加体験型に移行するに従って、観光客と地域住民との間で人的交流が進んでいる。地域独自の食材を活かした料理づくり、地元の窯元による陶芸教室、子供や高齢者向けのさまざまなイベント、これら参加型観光形態は観光対象物をただ見るだけの観光と違い、受入側の対応が非常に重要となる。つまり、ホスピタリティに対する受入側のコンセンサスが

必要となる。

近年、原風景を求めて、地域の農家民宿などに宿泊する観光客が増えている。彼等は、その地域の景観を愛し、その地域に身をおくことを好む。すなわち、彼等はその地域の理解者あるいは応援団であり、彼等の口を伝わって新たな観光客がその地域に足を運ぶことになる。このような地域への理解者を増加させていくこと（応援団づくり）こそが重要である。また地域にとっては地域づくりを推進し、さまざまな問題に対処していけるコアとなる人材（地域リーダー）を養成していくことが必要とされる。

4. 新たな観光対象

観光とは非日常的なものへの憧憬であり、観光客は日常生活では味わえない異質性を求めて観光地を訪問する。その意味で、テーマパークなどでは非日常性を如何に描くかが集客において重要な要因である。だが、その一方で、日常生活の中に、非日常生を感じ取る観光客も現れている。上記で述べた日本の原風景に近いものであるが、昔ながらの生活様式や昔の佇まいを残した町並みを体感するために、鄙びた地域に観光客が集まってくる。その地域に住む人々にとっては日常的生活スタイルが、都会や他の地域に住む人々にとっては日常生活において味わうことができない非日常的なものとなっている。その地域の魅力とは、非日常的なイベント事をあれこれと開催するよりも、いまある日常的生活を誇らしく守っていくことにあるのかもしれない。

おわりに

本章は、近江八幡市の観光入込客の動向について概観し、「近江八幡水郷めぐり」の概要と動向、近江八幡市の観光課題と施策、そして新たな観光まちづくりについて取り上げた。本共同研究では「水郷の観光まちづくり」をテーマとして、昨年度は柳川市、香取市の水郷の視察を行い、本年度は近江八幡市の水郷めぐりを視察した。柳川市の「掘割の川下り」、香取市の「小野川沿いの舟めぐり」とも観光客は減少しており、その傾向は「近江八幡の水郷めぐり」にも当てはまる。日本三大水郷と言われる柳川市、香取市、近江八幡市とも、景観や商家などの町並み散策が観光客誘致に結びついていない。水郷を活用した観光まちづくりには、住民参加と連携の下で新たな発想による観光施策の展開が必要とされよう。

参考引用文献

- 麻生憲一（2013）「水郷都市の観光まちづくり―柳川市と香取市を事例として―」『日本における水辺のまちづくり』研究叢書 42、愛知大学経営総合科学研究所、101～113頁。
- 近江八幡市統計書
- 近江八幡市観光振興計画書
- 滋賀県観光入込客統計調査
- 志村重太郎編（2000）『住民協働型地域づくりシステム』ぎょうせい
- 佐藤快信（2005）「第2章 市民参加のまちづくり 参加、参画、主導」松尾匡他編『市民参加のまちづくり戦略編』創成社

- 神野直彦（2010）『「分かち合い」の経済学』岩波書店
- 世古一穂編（2009）『参加と協働のデザイン』学芸出版社
- 西川芳昭他編（2001）『市民参加のまちづくり』創成社
- 久隆浩（2011）『4章 協働のまちづくりのあり方』日本都市計画学会関西支部新しい都市計画
教程研究会編『都市・まちづくり学入門』学芸出版社

